

実際に使用する際は、必ず商品に書いてある説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

←の部分が2011年9月21日付けで変更になりました。

【適用雑草と使用方法】

※印は本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬を年間に同一場所に使用できる総使用回数の制限を示す。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	総使用回数※	使用方法
樹木等	公園、庭園 堤とう、 駐車場、 道路、運動場、 宅地等	一年生雑草 多年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	20~ 40m l/m ²	本剤：2回以内 グリホサート：3回以内 ブロマシル：2回以内	植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布
				40~ 80m l/m ²		植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布
		ササ類		60~ 80m l/m ²		兼全面土壌散 布

本剤201本で散布できる面積（一年生雑草、多年生雑草に使用の場合）：25~50m²（約7.6~15.1坪）

【上手な散布の仕方】

- キャップを開け、そのまま雑草表面がしっとりぬれる程度に散布します。
 - 広い面積では、はじめからていねいに散布しすぎると途中で散布液が不足してしまう場合があります。散布は一度で終わらせずに2~3回往復するつもりで加減すると均一に散布しやすくなります。
- 散布液が出にくい場合は、ボトル側面を軽く押してください。

[注意]

- 有用植物も枯らす。
- 樹冠下や根の張っている範囲、傾斜地、激しい降雨が予想される時は使用しない。
- 芝生には使用できない。
- 土壌条件、気象条件（晩秋~春先の低温時、散布後すぐに雨が降るなど）によっては、効果にむらが生じる場合がある。
- 雑草の中には枯れにくい種類もある。
- 他の液を入れて使用しない。

【効果・薬害等の注意】 **ハウス内禁止マーク**

- ・ 植栽地を除く樹木等の周辺地で使用する場合は、薬剤が樹木等の植栽地に流入または飛散するおそれがある場所等では使用しない。
- ・ 本剤が植物の葉面や根から吸収されると薬害が発生するので、水田や水田への利用が考えられる用水路等に本剤の流入が想定される場所や、農作物および樹木等有用植物の付近では使用しない。
- ・ 傾斜地や砂質土壌では、本剤の流出による薬害のおそれがあるので使用しない。
- ・ 本剤を散布した場所やその付近では、有用植物の植付けは行わない。
- ・ ハウス等の施設内およびその周辺では使用しない。
- ・ 本剤の飛散あるいは流出によって、樹木等の有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布する。
- ・ 本剤が流出するような激しい降雨が予想される場合は散布を行わない。
- ・ 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意。

【安全使用上の注意】 **マスク絵表示**

- ・ 体調のすぐれない時は散布しない。
- ・ 誤飲などのないように注意する。
- ・ 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗する（弱い刺激性）。
- ・ 散布時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ・ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- ・ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。
- ・ 水源池、飲料水、灌漑用井戸、養殖池等に本剤の飛散や流入及び浸透が想定される場所では散布を行わない。
- ・ 容器はよく洗浄し、洗浄廃液は直接河川や用水路に流れ込まないように十分注意し、環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- ・ 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう3回以上洗浄してから適切に処理する。

【魚毒性等】 **魚注意マーク** 養殖池等周辺での使用はさける。

【保管】 飲食物・食器類やペットの餌と区別し、直射日光をさけ、密栓して、小児の手の届かない低温な場所に保管。